

特集：図書館業務のコンピューター化

リレーショナルデータベース
dBASEIII PLUS を使って

野原千鶴

1. はじめに

昭和59年11月に済生会下関総合病院図書室に NEC PC9801が2台設置され、ワープロソフト、表計算ソフト、データベースソフトとしてdBASEIIも揃え、一般職員に開放された。そこでせっかく図書室内にあるものを図書室業務に利用すべく、当初ワープロや、表計算ソフトを恐る恐る始めて、MS-DOSの本を2冊¹⁾²⁾じっくり読み、60年12月dBASEIIに取り組んだ。当時不十分なマニュアルしかなく、プログラムがどういうものかも知らず、試行錯誤で2ヶ月間無我夢中で勉強し、昭和61年2月、初めて短いプログラムが完成し、どうにかコンピューターを能動的に使えるようになった。それ以後ハードディスクを併設したり、ソフトもdBASEIII PLUS にバージョンアップし、さらに使いやすくなった。コンピューターを利用すると便利と思われる作業をどんどんプログラム化していき、現在では図書室業務のほとんどをシステムとしてコンピューターで行っている。担当者自身が作っているので、気づいた点があればすぐに追加や修正ができる。以下簡単にdBASEIII PLUS を使って行っている当院図書室業務のコンピューター化を説明する。

2. 業務のコンピューター化

使用している機器はNECパーソナルコンピュータ-PC9801m2、20MBハードディスク、ソフトウェアは

dBASEIII PLUS2.0J(ポーランド株式会社)、その他月報・年報・図書室だより等のプリントアウト用に「マルチプラン」(マイクロソフト社)、「新一太郎」(ジャストシステム)を用いる。

コンピューターによる業務内容は表1の通りである。リレーショナルデータベースの特徴は複数のデータベースファイルを同時に利用できることである。またデータ量も大量のものが処理でき、さらに工夫次第で随分入力処理など手間を省くことができるし、思うとおりの書式を作成できたり、細かい作業ができるという多様性にも恵まれていることである。

(1) 雑誌

毎日雑誌受入時に入力する項目は、受入日・巻数・号数・特集名・価格の5項目であり、別に雑誌名・受入先・所蔵開始年・コンテンツシート配布先・年間価格等予め入力してある雑誌基本データベースと組み合わせることで、様々な書式をプリントアウトできる。和雑誌の特集記事検索はキーワードを5つまで用いて、その言葉を含む特集記事を検索し、検索結果をプリントアウトして依頼者へ渡す。また毎月始めに、分野別の和雑誌の特集記事リストを更新している。

(2) 単行書

入力した単行書データから、台帳・貸出カード・目録カードを作成する。単行書の検索は分類番号・図書名・読み仮名入力の3つの方法から選択できる。

(3) 製本

製本仕様は、前年分とほとんど同じなので、雑

のほら ちづる：済生会下関総合病院図書室

誌名・仕様等、前年分のデータを用いて、年・巻等、異なる部分だけ修正して製本仕様書を打ち出す。欠号を入力しておくで欠号リストが作成される。製本が到着すると受入日と登録番号を入力して、貸出カード等を作成し、製本の累積データベースへ登録する。製本リストは発注リスト・受入台帳リストの両方を兼ねる。

(4) 月報作成

毎月初めに、前月分の雑誌と単行書を検索したものを、「マルチプラン」を用いて細かな計算をさせ、プリントアウトさせて月報に仕上げる。

(5) 年報作成

単行書・雑誌・製本・相互貸借・レファレンスワーク・図書委員会等、ほとんどすべての図書室業務の年間まとめを作成。雑誌・製本・相互貸借は各々の台帳がそのまま年報となる。単行書は年間受入分を検索し、受入番号順に並べ変えたものをワープロ「新一太郎」で書式を整えプリントアウトさせる。

(6) 図書室だより作成

図書室の広報誌として、毎月初めに、図書室からのお知らせや、前月受け入れた単行書と和雑誌の特集名を紹介する。各々のデータベースから前月入力分を検索し、「新一太郎」で書式を整える。

(7) 相互貸借

院外文献複写依頼が出されると依頼先を確認し、データを入力する。依頼先データベースと組み合わせで往復葉書や、FAX 依頼用紙、依頼状や封筒の表書きなど作成する。文献が到着したら料金等を入力し、金額計算させ支払い明細や振込用紙、請求書を作成する。年報として、院外への依頼、院外からの依頼別の統計処理を行う。

3. まとめ

当院図書室の業務コンピューター化の第一歩は和雑誌の特集記事検索であった。まずコンピューター

表1 コンピューターによる
済生会下関総合病院図書室業務

1. 雑誌
(1)受入データ入力 *受入日・巻数・号数・特集名・価格
(2)和洋雑誌台帳作成・受入状況プリントアウト
(3)和雑誌特集記事 *検索 *分野別特集記事ファイル作成
(4)雑誌基本データ操作 *基本雑誌データの登録・修正・削除 *各種雑誌名リスト作成
(5)前年または翌年分の雑誌データファイル操作
2. 単行書
(1)単行書検索 *分類番号・図書名・読み仮名
(2)新規登録・データ修正
(3)台帳・貸出カード・目録カード作成
3. 製本
(1)製本データ更新・修正
(2)製本新規登録
(3)製本仕様書作成
(4)製本リスト作成
(5)欠号リスト作成
(6)製本到着処理 受入データ入力・貸出カード・目録カード作成 製本データ累積ファイルへ登録
4. 月報作成
5. 年報作成
6. 図書室だより作成
7. 相互貸借
(1)文献複写依頼処理 *データ入力 *依頼書式作成 往復葉書・FAX用紙 ・依頼状・封筒
(2)文献到着処理 *データ入力 料金等 *支払い及び請求書式作成 明細書・ 振込用紙・封筒等
(3)複写依頼先データベース処理
(4)年間相互貸借業務統計

ターの検索機能に着眼したわけである。次は書式の美しさと同様性である。病院図書室の業務は例えば単行書は図書名・著者名・巻数を台帳・貸出カード・目録カードに書き写すなど、一つの事柄

1991年 和雑誌受入表

小児内科			1991年 井上書店		42
受入日	巻号	特集名	価格	RND	
2.19	23	1 NPO新生児フォロアアップ(超未熟児,他)	28440	198	
3.15	23	2 血友病と関連疾患(血友病凝固,他)	0	357	
4.08	23	3 甲状腺疾患と最近の進歩	0	461	

追加:A 修正:E 終了:0 別誌CODE:

写真1 雑誌入力画面

反転しているのが入力項目(受入日・巻・号・特集名・価格)
 画面上の雑誌名や年、書店名は別のデータベースのデータの表示



写真2 図書室だより

B4判両面刷りを半分に折り、B5判4ページのもの。1ページ目は図書室からののお知らせと前月受入単行書の紹介。2～4ページは雑誌の特集記事。

を何度も書かなければならないことが多い。コンピューターのメリットは一度入力したデータは何度でも利用できることである。dBASEⅢ PLUSは機能が強く、一度使い慣れると、簡単なコマンドの組合せで自分の思うとおりの作業をさせることができる。初心者には難しいというイメージが先走り、とっつきは悪いようであるが、それはどのソフトウェアも同じで、必ず初めはある程度の勉強が必要である。使用するコンピューターにもよるが基本的な勉強としてMS-DOSの知識があれば、ハードやディスクを扱うことに不安がなくなるし、その後のコンピューターの勉強が理解しやすくなる。自分でプログラムを組むことができるようになると、いつでも、すぐに、また無料で変化に対応できるし、小規模なパソコンレベルでは、それはそんなに大変なことではない。またそれができるとコンピューターに関するコミュニケーションも生まれ、図書室の情報活動の一環を担うことにもなっている。図書室の職員は孤立して仕事をするよりも、だれかコンピューターの知識のある人に相談しながら、またそういうコミュニケーションを大切にしながら勉強していく方がよりわかりやすく、長続きするものである。

当院図書室のコンピューターは非常に初期の型式であり、処理速度も現在市販されているものと比較すると格段に遅い。しかしそれは日常業務を把握して、自動的に仕事を処理させたりして工夫することでなんとか補っている。デメリットといえば、例えばCD-ROM等は対応できないこと、それから、図書室内にはパソコン2台、プリンター1台設置しているが、他の利用者が使っていると仕事ができないこと。それに雷が鳴り始めると、停電になるのでは、と少し不安がよぎることである。この点はこまめにデータを保存したり、バックアップをとるようにしている。

コンピューターは大変便利である。現在市販されているソフトウェアには、メニュー方式で簡単に操作できるものもあり、解説書も豊富にあるので勉強も随分楽なのではないかと思われる。データベースを扱う場合、まずデータの構造をつくること、データを入力すること。これさえできれば後はなんとかかなりすよ。

《引用文献》

- 1) 村瀬康治：入門MS-DOS，東京，アスキー，1986。
- 2) 村瀬康治：実用MS-DOS，東京，アスキー，1986。

《参考文献》

- 1) 野原千鶴：パソコンによる雑誌管理業務システム，病院図書室，8:24-42,1987。
- 2) 野原千鶴：dBASEⅢによる図書室業務管理システム，医学図書館，34(3):224-246,1987。
- 3) 野原千鶴：dBASEⅢによる図書室業務管理システム(2)，医学図書館，35(2):94-112,1988。
- 4) 野原千鶴：dBASEⅢ PLUSによる図書室業務管理システム(3)，医学図書館，38(1):7-16,1991。
- 5) 野原千鶴：病院図書室における雑誌管理業務—パソコンを用いての整理と利用—第18回医学図書館員セミナー論文集：43-69,1991。
- 6) 安藤 裕：データベース(1)データベースを使用する前に、医療とコンピュータ，4(1):61-65,1991。
- 7) 安藤 裕：データベース(4)「リレーショナルデータベース」—その1，医療とコンピュータ，4(6):66-73,1992。
- 8) 堀江幸司，他：日本語dBASEⅢ PLUSによる「雑誌特集記事管理システム」の開発—機能の概要—，医学図書館，35(3):153-166,1988。
- 9) 飯田育子：パーソナル・コンピュータで作成した雑誌特集記事索引の利用状況，医学図書館，39(2):179-187,1992。
- 10) 飯田育子：パーソナル・コンピュータによる雑誌特集記事索引システムの作成，オンライン検索，13(2),1992。(印刷中)